

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673200079
法人名	社会福祉法人 正栄会
事業所名	ふるさとの家郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市東俣町3853番地 (電話) 099-298-8118
自己評価作成日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○老人会の遠足に参加し、地域住民との交流をしている。また、外出の機会を多くとり、入居者の方々と話し合い、ドライブに出かけたり、梅取りや花見、畑仕事に行くなど外出の機会が多い。
○入居者主体で敷地内の畑に野菜を育て収穫し、食事に提供するなど生きがいつくりになっている。また、収穫した野菜を子ども食堂へ提供している。
○コロナ禍で家族との活動は難しいが、状況を見ながらミカン狩りに出かけるなどしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業者は特別養護老人ホームを母体とする種々の福祉事業所の1つのグループホームであり、関連施設との連携を構築している。
- ・地域住民の一員としてまた、地域への発信源として、地元の畑を借り利用者とともに野菜を作り、無人販売所で住民に販売し利用者の生きがいや地域交流を構築している。
- ・自治会に事業所が加入し、老人会は利用者全員が加入し、老人会の遠足にも参加している。
- ・市の認知症疾患委員会の委員や中学校で福祉の職種の講演をしたり、実地指導の説明に出かけたり、コロナ禍の中でもできる交流に努めている。
- ・コロナ禍の中で自粛しながら、菜の花や紫陽花・ひまわり・桜等の花見のドライブをしたり、広い庭でさんま焼き祭りや焼き芋会・げたんは作り・あくまき作り・梅干し作り等を利用者と一緒に楽しんでいる。
- ・コロナ禍で、面会は窓越しの為、それを補う意味で家族の了承のもと、SNS等で動画を配信し、返信ももらえ家族に喜ばれている。
- ・管理者は職員の資格取得や研修に力を入れ、サービスの質の向上に努め、職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員で理念について考える時間を作り、職員は理念に基づき、考えながら実践できるようにしている	理念を事業所内に掲示し、パンフレットや重要事項説明書にも記載している。月1回の職員会議で理念を基に、利用者が地域の一員としてできることをして生活を楽しめるよう振り返り確認して、生きがいのある暮らしの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事（老人会行事、文化祭等）に参加し、地域の方々との交流をしている	自治会は事業所が、老人会は利用者全員が加入している。コロナの状況を見ながら老人会の遠足に参加、文化祭の作品展示、案山子祭りに出品したり、子ども食堂に大根の贈呈、作った野菜の無人販売、学校から花の苗をもらったり、中学校では福祉の職種等の講演もしている。コロナ感染防止に配慮し地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	鹿児島市が行っている見守りメイトの受け入れ事業所や実務者研修の実習受け入れをして、地域の方々や今から介護職員として働く方々へ認知症の理解を伝えている。子ども食堂へ食材を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦でホーム実施はできていないが、事業所の活動報告や自己評価等を配布して意見を求めている	会議は2ヶ月に1回委員へ資料を届け、その時意見をいただく書面会議としている。老人会長等の来訪があり、事業所の現状を伝え、地域行事等の情報を得て、サービス向上に活かしている。コロナに関する意見が今は多い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター職員と運営推進介護等で情報を交換したり、管理者自ら行政や関係機関の委員を引き受け協力関係を築いている。	市や地域包括支援センターとは、電話連絡や入所者相談などで出向く等、連携を図っている。市の認知症疾患委員会の委員をしたり、実地研修時に説明に出向いたり、GH連絡協議会のオンライン研修に参加し、情報共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い、身体拘束の弊害等を学び、拘束をしないように意思を統一している。また、言葉による拘束がないように職員一同気を付けている。	指針を基に、身体拘束廃止委員会を毎月行い全体会議も毎月末に実施している。新任研修もしている。研修会を年1回実施し、事例検討を行い言葉の拘束に注意している。玄関の施錠はせず、外出希望の入所者には職員の連携で一緒に散歩している。行動の制限のない自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴等を通じて体にあざがないか確認している。また、入所者の表情などから異変を察し、職員に尋ねるなどしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方の後見人から意見を聞くなどしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者・計画作成担当者が十分な説明を行っている。また、入居申し込み時は職員が説明できるようにしており、十分な対応ができるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ZOOM面会や窓越し面会時に要望や意見をいただくようにしている。	利用者からは日常の会話の中から要望を聞き、家族には来訪時や電話で要望等を聞いている。面会は窓越し面会であるが、家族の了承の下、SNS等で動画を配信し、日常の暮らしぶりがよくわかると喜ばれている。外泊希望の意見には、実施時期について、コロナの状況により法人で判断することになると伝えて了解をもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議を通じて意見がないか確認する機会を作っている。	全体会議や年2回の評価面談の個別面談時に職員の提案や要望を聞く機会を設け、話し合い運営に活かしている。職員の意見により廊下の明かりをLEDに替えて明るくなった。勤務変更の要望も全職員の理解を得て年齢や健康状態を考慮し配置転換等を行う等、就業環境の改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアアップなどの研修があり、職場の環境整備、やりがいができるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加する機会があり、研修扱いで参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、グループワークを通じて交流の機会をつくり、意見交換を行い、資質向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の関係づくりが大切と認識しているので職員は特にコミュニケーションを図り、不安や要望を聞く姿勢を取っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時で困りごと等を尋ね、共通理解ができるように努めている。また、不安が軽減できるように支援していくことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯畳み、畑仕事などできることを実践できるように、入居者自ら自己決定しやすい関係を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者が望んでいることを家族に伝え、面会や外出、医療機関受診ができるように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「どこか行きたい所はないですか？」と尋ねて、出来るだけ希望に添えるように対応している。また、ご家族へ連絡して面会に来ていただくなど支援している。	コロナ禍で自粛しているが、状況を見ながら菜の花・アジサイ・ヒマワリ・コスモス見物、家族と一緒にミカン狩り・さんま祭り・花火大会・夏祭り等、楽しく暮らしている。家族との受診や外出時に買い物や墓参りをしている。家族との窓越し面会や電話・事業所から広報誌や毎日更新するSNSで近況報告を行い、理美容師は訪問で行こなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが取れるように、スタッフが橋渡しをしたり、場を提供するなど、気配りをしながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談を受けるなど関係が途絶えないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向、希望などをくみ取り、把握できるように努めている。また、困難なことがあれば最良の方法を職員で検討している。	職員会議の中で研修を行い、日常会話の中で、したいことや思い等を話しやすい雰囲気を作り、声掛けを工夫している。特にお茶時、畑仕事時、入浴や夜勤時に話を聞いている。困難な場合は表情やしぐさ等で把握し、これまでの関わりの中や、家族の意見を参考に職員で話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族家族から聞き取りをしている。また、サービス機関から家族の同意を得て、可能な限り、情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話をしながら思いをくみ取り、支援経過などこまめに記入し、心身の状態の変化を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングし、ご利用者の心身の状況をスタッフ間で話し合いができている。話し合った結果を介護計画に反映している。	前もって本人や家族の要望を聞き、かかりつけ医の意見を参考に職員で話し合って介護計画を作成し、家族にも説明している。モニタリングは3ヶ月毎に、見直しは6ヶ月または状況変化時に見直し、現状に合った介護計画である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気になることを支援経過に記録して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内にとらわれず、関連施設や各種施設に出掛け、思い思いの行動ができるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会の遠足等地域行事に参加したり、ドライブに行くなどホームにとどまることなく地域で楽しく過ごすことができるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医にもち、医師や看護師との連携を築きながら適切な医療環境を保っている。	契約時に確認し、かかりつけ医による月1回定期受診を支援している。複数の看護師がいて日常の健康管理ができています。医療機関との24時間医療連携体制ができており、緊急時のかかりつけ医の指示を受けて適切な医療を受けている。職員が同行した場合は受診結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況を把握し、看護師へ相談できる環境をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はサマリーを提出または受け取り、GHでの生活がスムーズにできるように情報共有できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はGHで行える支援等を説明し、本人・家族が望む最良の方法を支援する。	指針があり、契約時に重度化等の場合の対応について説明し、確認している。状況変化に応じて段階的に主治医が説明し、特別養護老人ホーム等の施設の選択肢について話し合い、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。家族の希望により見取りをした事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊の方から心肺蘇生法や骨折時、窒息時の対応を学んでいる。また、外部研修等の研修に参加し知識を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応法を職員が目につくところへ掲示している。また、年2回地域の方の協力で防災訓練を行っている。	年2回夜間想定避難訓練を実施し、1回は消防署の指導の下、1回は自主訓練である。地域の自主防災組織があり、協力体制が築かれており、今年度はコロナ自粛の為、事業所のみで実施している。地域の緊急連絡網もある。備品管理は業者が法人管理のもと整備している。避難場所は広い前庭である。備蓄は3日分の水・米・インスタントラーメン・レトルトカレー等を確保している。BCP対策もできている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけを丁寧にし、誇りを傷つけないように声掛け対応をしている。	職員会議で勉強会を実施している。入室時や入浴・排泄介助時には羞恥心や声のトーンに配慮し、さりげない声掛けで対応をしている。広報誌やSNSの写真使用は同意書をもらっており、申し送りは面接室で行い、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や表情で察し、適切な声掛け対応を行い、希望に添えるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人になりたいときはどこで過ごしたいかを聞き、自分のペースで過ごすことができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で着替えることができる方は自ら選択できるようにしている。着替えることができない方は、選択できるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を下げたり、食器洗いが一緒にできるようにしている。嗜好を聞き、おいしく食事ができるようにしている。	旬のものを使い食事形態を考慮し、季節の行事食も種々そろえ、恵方巻・土曜のウナギ・あくまき作り・げたんは作りは賑やかに、梅干しは梅拾いから始まり、利用者も一緒に下ごしらえや下膳・食器洗いをしている。誕生会の特別メニューとケーキ作り・四季の食事が楽しめるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作り、栄養に偏りがないようにしている。水分や食事をチェックしている。嚥下障害がある方はとろみをつけるなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行い、誤嚥がないようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、都度声掛け、誘導をしている。	チェック表により、個々のパターンに合わせ、日中はトイレ排泄を支援し、声掛けや誘導でトイレに移動しての排泄に努めている。もともと布パンツの人も多く、現状維持に努めている。排せつ用品は個々に応じた適切なものを検討している。夜間はポータブルトイレ利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を飲み物に入れ、排泄がスムーズにあるようにしている。また、水分を多くとったり、運藤をするなどしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決められているが、発汗や失禁時など柔軟に対応できるようにしている。	週2回午後の入浴である。畑仕事の後はシャワー浴をしている。発汗や失禁時等も柔軟に対応している。同性介助や2人介助等で安全に気持ちよく支援している。拒否の場合は時間や声掛けを工夫し、無理強いせず、翌日等に変更することもある。入浴剤やゆず湯・しょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度に気を付けながら快適に休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬一覧があり、用法や容量がわかるようにしている。薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記載し、情報共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や楽しみにしていることを聞きながら、気分転換できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	老人会の遠足や足湯、ミカン狩りなど普段いけないところに外出している。本人の希望を聞きながら、外出の機会を増やしている	気候や体調が良ければ、畑仕事を楽しんだり、収穫したり、菜の花や紫陽花・ひまわり・コスモスの花見や家族とともにミカン狩りや花火大会等、月1回はドライブに出かけている。広い庭を利用してさんま焼きや焼き芋をして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口の所持金を預かり、希望するものを購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話は都度取り次いでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑作りやドライブなどで季節感を味わったり、室内から外が見えるようになっているので季節の移り変わりなどを感じることができる。	日当たりのよいフロアは、畳部屋があり、ウッドデッキから広い庭に自由に出られる。換気を十分行い空気清浄機も活用し、温度や湿度の調整に配慮している。思い思いにくつろげるよう、ソファがフロアや廊下に置き、外にもベンチがある。好みの場所で穏やかな時間が過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下等にソファを設け、一人でゆっくり過ごしたいときはくつろげるようにしている。また、会話ができるように居場所の工夫などしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔なじみのものを家族にもってきていただき、心地よく過ごすことができるようにしている。	居室にはベッド・エアコンを設置している。個々に本人が使い慣れた箆笥やテレビ・ラジオ・仏壇・位牌・遺影・寝具等を持ち込み、家族写真や作品を飾り本人が自宅にいる時と同様にくつろいで暮らせるような部屋づくりをしている。室内整備は家族と共にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設けて移動しやすいようにしている。また、車いすで移動しやすいように廊下は広くしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない